

経営協議会議事要旨

1. 日時 令和6年11月19日(火) 13:25～14:27
2. 場所 弘前大学創立50周年記念会館2階「岩木ホール」
3. 出席者 福田(学長・議長)
今井, 櫛引, 九戸, 須藤, 永澤, 中林
若林, 藤波, 岡崎, 曾我, 橋本, 袴田, 牛田の各委員13名
- 欠席者 岡井, 木村, 小谷の各委員3名
- 陪席者 中川監事, 三上監事, 佐野理事, 柏倉学長特別補佐, 村下学長特別補佐,
加藤法人内部監査室長
- 事務部陪席 大宮総務部長, 浅利財務部長, 山口学務部長, 赤石施設環境部長, 古館研究推進部長(兼)社会連携部長, 中野医学部附属病院事務部長, 今国際連携本部調整役, 金沢総務企画課長, 工藤広報・情報戦略課長, 鳥潟人事課長, 九鬼財務企画課長, 長谷川財務管理課長, 今契約課長, 羽角施設環境企画課長, 三浦研究推進課長

4. 配付資料

- 資料1 【事前配付】令和6年度「人事院勧告」への対応について
- 資料2 【事前配付】令和6年度弘前大学予算実施計画の変更について(案)
- 資料3 【事前配付】弘前大学共創研究所及び共創研究部門規程の制定等について
- 資料4 【当日配付(要回収)】土地(弘前市紙漣町)の寄附受け入れについて
- 資料5 【事前配付】医学部の収容定員の増加について(通知)
- 資料6-1 【事前配付】令和5事業年度 組織評価の結果等について
- 資料6-2 【事前配付】令和5事業年度 組織評価に係る部局ヒアリング学長・各理事の評価コメント一覧
- 資料7 【事前配付】令和6年度医学部附属病院の経営状況について
- 資料8 【事前配付】令和6年度内部監査結果報告書

5. 議事

議長から、6月18日開催の議事要旨(案)の確認及び9月18日の紙上会議の結果報告が行われ、原案のとおり承認された。

○審議事項

審議1 令和6年度「人事院勧告」への対応について

藤波総務担当理事から、資料1に基づき、令和6年度「人事院勧告」への対応について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

審議2 令和6年度弘前大学予算実施計画の変更について

藤波総務担当理事から、資料2に基づき、令和6年度弘前大学予算実施計画の変更について説明があり、審議1の結果を踏まえ実施することとして了承された。

審議3 弘前大学共創研究所及び共創研究部門規程の制定等について

曾我研究担当理事から、資料3に基づき、弘前大学共創研究所及び共創研究部門規程の制定等について説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

審議4 土地(弘前市紙漣町)の寄附受け入れについて

藤波総務担当理事から、資料4に基づき、土地(弘前市紙漣町)の寄附受け入れについて説明があり、審議の結果、原案のとおり了承された。

○報告事項

報告1 医学部の収容定員の増加について

若林企画担当理事から、資料5に基づき、令和7年度医学部の収容定員の増加について報告があった。

報告2 令和5事業年度 組織評価の結果等について

若林企画担当理事から、資料6-1及び資料6-2に基づき、令和5事業年度組織評価の結果等について報告があった。

報告3 令和6年度医学部附属病院の経営状況について

袴田医学部附属病院長から、資料7に基づき、令和6年度医学部附属病院の経営状況について報告があった。

報告4 令和6年度内部監査（特定監査項目）の結果について

加藤法人内部監査室長から、資料8に基づき、令和6年度内部監査（特定監査項目）の結果について報告があった。

○質疑応答（□：学外委員 ○：学内委員）

1 令和6年度「人事院勧告」への対応について

- これまでの人事院勧告では何月まで遡及していたのか。
- 4月まで遡って対応してきた。今回は影響額が大きく、12月遡及を検討している。

- 人事院勧告への対応は自己財源で賄い、国からの予算措置はないというのは以前からなのか。
- 以前から自己財源で対応している。

2 令和6年度弘前大学予算実施計画の変更について

- 留年は最初から見込んで予算立てをしているのか。
- 授業料については、過去の収入実績の平均値を用いて予算を立てている。それと比較して今年度は学生数が減少した計算となっており、その大きな理由として留年生の数が減っているということである。

3 弘前大学共創研究所及び共創研究部門規程の制定等について

- 共創研究所及び共創研究部門はどのようなパターンで作られることが多いのか。大学から申し入れするのか、企業からなのか。
- 相互の話合いの中で生じるものと捉えている。本学の場合、COI-NXETに多くの企業が参画しているため、これらの企業の中からは共創研究所にと考えている。

- これまでも共同研究という仕組みがあり、これをもう一歩進めるものと考えているのがあるのか、もっと企業色を強くしていくものと考えているのがあるのか。共同研究の場合、時期が来ると終了という感じがするが、研究所という場所を作ってしまうと倫理面を含め何らかの責任が生じるのではないかと懸念する。
- 共同研究よりももう少し大規模なものとして共同研究講座というものが既にあり、さらに長期間かつ金額も大規模なものとして共創研究所というものを考えて

いる。いきなり共創研究所ができるというのではなく、本学との信頼関係の中で作られていくのではないかと考えている。そのため、既に本学にある共同研究講座のうち、さらに積極的に本学と研究に取り組む意向のある企業に働きかけていくことになると思う。倫理的な面は非常に重要であり、研究インテグリティをはじめとした本学のルールに当然抵触しない形で進めていく。

□ 地元企業とのタイアップが理想だが、県外や海外の企業の場合、その企業とタイアップし、将来的にその企業が企業誘致として地元に来てもらえるところまで進む可能性はあるか。

○ 大手企業と地元企業との関連を作り出そうと取り組んでおり、弘前市も関与して地元の力に繋げていく動きはしている。COI-NEXT 自体が地元で産業を興すことを目的にしており、本学としては、大手企業の協力も得ながら地域産業を豊かにしていきたいという思いは共通していると考えている。

□ 共同研究や共同研究講座の現在の県内・県外企業の割合はどのようになっているのか。

○ 共同研究講座は大手企業がほとんどであるが、共同研究では地元企業の割合も増える。本学がトライアルファンドと銘打って実施している、大学が経費を負担する地域企業との共同研究では圧倒的に地域企業が多い。

□ 共同研究講座を作る場合はほとんどが大企業と捉えて良いか。

○ その通りである。

○ 共創研究所は、さらに一段高いレベルで企業の色々な研究開発 R&D(Research and Development) の本部を弘前に作っていただくものをご理解いただくとわかりやすいと思う。R&D の本部があるということは、そこに研究の中心が来るということである。単に製造部門の企業誘致ではない形の価値ある産業創出に繋がるのではないかと考えており、時間はかかるが将来的にはそれに繋げていきたいと考えている。

4 令和5事業年度組織評価の結果等について

□ AI についての研究、取り組みを教えてください。

○ 理工学研究科では、AI そのものを研究するというよりは、AI をツールとして様々な開発をしていくという取り組みをしている。現在さらに AI や情報分野での機能を強化するため様々な取り組みをしているところである。

○ 附属病院では、医療情報部を中心として、業務改善、医療の効率化の面において様々な AI をどう活用するかということを中心に検討している状況である。

□ AI の開発というよりは、AI の活用に取り組んでいるということが良いか。

○ その通りである。

□ 部外者には分からない言葉もあるが、全体的にもっとユニバーサルにしていく必要があると感じた。教育学部教員が世界の第一線の研究を行っていると書いてあるが、弦幾何理論とは何の分野なのか。新しい取り組みはもっとアピールして良いと思う。

○ 宇宙に関する研究である。教育学部の他に、宇宙に関する研究者が理工学研究科に4名おり、外部から注目を集めている分野である。

○ 理工学研究科には宇宙物理学研究センターがあり、宇宙の教育研究を推進している。ここで勉強したいと希望して入学してくる高校生も多い。

- 教育学部では休退学の分析が行われているとのことだが、これは教育学部だけが行っているのか、特に教育学部で休・退学が目立っているからなのか。
- 全ての学部学科で分析を行っている。組織評価では過去3年分のデータを見ているが、教育学部のある単年度に関して退学者が多かったという分析結果に着目したコメントである。

以上